ふじのくに 静岡みなと通信

vol.19 春9号 2013.1.23

地球深部探査船「ちきゅう」

地球深部探査船「ちきゅう」の巨大なデリック（掘削やぐら）とクレーン

～目次～

●静岡みなと通信「春９号」発行に寄せて（下田市長）……1
●港湾関係行事予定 ……1
●「港湾・漁港の津波対策」 ……2
●みなとニュース……5
●きらり☆みなと［沼津港］ ……10
●みなと自慢［松崎港］ ……11
●港こぼれ話 ……13
●静岡県港湾振興会の活動報告 ……15

静岡みなと通信「春9号」発行に寄せて

静岡県港湾振興会評議員
下田市長　楠山　俊介

下田港全景
（写真提供:国土交通省中部地方整備局清水港湾事務所）

島国である日本にとって、港湾は物流の拠点であり、輸入物資の9割以上が港を介し私たちの生活を支えております。さらに、防災の面においても住民の生命、財産を守る上で重要な役割を担っております。

当市には幕末開国の舞台となった下田港があり、毎年5月には黒船来航を記念した黒船祭が開催されています。また、毎年7月に開催される国際カジキ釣り大会は夏の一大イベントとなっております。

現在、当市の港湾部には『まどが浜海遊公園』や『道の駅開国下田みなと（ベイステージ下田）』が整備され、市民の憩いの場や重要な観光資源として、賑わいの拠点となっております。しかし、昨年の8月には内閣府より南海トラフの巨大地震による津波の被害想定が公表され、下田市においては最大津波高33mという衝撃的な数値が示されました。東日本大震災以降、住民の防災への意識は日増しに高まっています。今後より一層、災害に強い港湾整備が求められます。

私達『静岡県港湾振興会』は皆様と共に港湾、海岸の整備を積極的に進めるとともに、本誌や本会の活動を通じて、多くの皆様に今後の港湾施設の整備並びに利用促進に一層のご理解、ご支援を賜れば幸いに存じます。

港湾関係 行事予定（平成25年2月1日～平成25年7月31日）

日　　程	内　　容	日　　程	内　　容
毎月第1（日）	海湖館朝市（湖西市）	6/30（日）	第6回静岡県ドラゴンボート大会御前崎市長杯（御前崎市　御前崎港）
3/2（土）～3/4（月）	多賀わかめ祭り（熱海市　長浜海浜公園）	7月上旬	御前崎海水浴場開き（御前崎市　マリンパーク御前崎）
3/14（木）	ふじ丸出港（静岡市　清水港）	7月上旬～8/31（土）	新居弁天海水浴開設（湖西市）
3/17（日）～4/7（日）	風の花祭り（まどが浜海遊公園）	7/6（土）	弁天島海開き花火大会（浜松市　浜名港）
3/19（火）	ふじ丸入港（静岡市　清水港）	7/12（金）～7/19（金）	海と港のパネル展（JR新富士駅ステーションプラザ）
3/23（土）	外国クルーズ客船「アマデア」（静岡市　日の出埠頭）	7/14（日）	田子浦みなと祭り(富士市)
3/31（日）・4/29（月・祝）	春季熱海海上花火大会　（熱海市　熱海港）	7月中旬～8/31（土）	女河浦海水浴場開設（湖西市）
4/27（土）	宇久須キャンプ場オープン（西伊豆町　宇久須港内　深田クリスタルビーチ）	7月中旬	SEA SIDE STATION'13　in SHIZUNAMI（牧之原市　静波海岸）
4/29（月）	第21回　大井川港朝市　（焼津市　大井川港）	7月中旬	白浜海の祭典・花火大会（白浜大浜海岸）
4月下旬	さがら草競馬大会（牧之原市　さがらサンビーチ）	7月中旬	第13回　踊夏祭　（焼津市　大井川港）
5月～8月第3（土）	舞阪漁港えんばい朝市（浜松市　舞阪漁港）	7/20（土）・7/28（日）	夏季熱海海上花火大会　（熱海市　熱海港）
5/4（土）・5/5（日）	さがら凧あげ大会（牧之原市　さがらサンビーチ）	7/21（日）	網代ベイフェスティバル　（熱海市　網代港埋立地）
5/17（金）～5/19（日）	黒船祭（下田市内各会場）	7/25（木）～7/28（日）	国際カジキ釣り大会（下田沖）
5/18（土）	第41回　沼津水産祭（沼津市　沼津港）	7/26（金）	しずなみ海水まつり花火大会（牧之原市　静波海岸）
5/25（土）・5/26（日）	清水港フラワーショー&インポートバザール2013（静岡市　清水マリンターミナル）	7/27（土）・7/28（日）	マリンフェスタ下田（下田市内）
5/25（土）～5/28（火）	天草・ところてん祭り（西伊豆町　仁科漁港）	7/27（土）	堂ヶ島火祭り（西伊豆町　仁科漁港）
5月下旬	第3回御前崎みなとかつお祭り（御前崎市　御前崎港）	7/30（火）・7/31（水）	伊東温泉「夢花火」Part1～2（伊東市　伊東港海岸）
6月中旬	オープンウォータースイミングレース大会（南伊豆町湊　弓ヶ浜海岸）	7月下旬	田子の浦港海上安全祈願祭（田子の浦港　吉原埠頭）
6/22（土）・6/23（日）	2013ジュニア・マスターズオープンサーフィン大会（牧之原市　静波海岸）	7月	ビーチバレーボール大会（西伊豆町　宇久須港内　深田クリスタルビーチ）

特　集

港湾・漁港の津波対策

静岡県では現在、大規模地震の発生に備えた新たな取り組みとして、第4次地震被害想定（4次想定）の策定作業を進めており、平成25年6月の公表を目指しています。
そこで、港湾・漁港における県の津波対策について紹介します。

津波対策の考え方

静岡県では人命を守ることを最も重視し、津波の発生時期や規模などあらゆる可能性を考慮しつつ、ハード・ソフトの両面からできる限りの対策を実施することにより、被害をできるだけ少なくする考え方、いわゆる「減災」を津波対策の基本理念としています。
そこで、第4次想定では、国による中央防災会議の「東北地方太平洋沖地震を教訓とした地震・津波対策に関する専門調査会報告」（平成23年9月）などを踏まえ、次の二つの規模の津波を対象とし作業を進めています。
一つは、発生頻度は極めて低いものの“発生すれば甚大な被害をもたらす最大クラスの津波（レベル2津波）”で、住民避難を柱とした総合的防災対策を構築するために想定する津波です。
もう一つは、最大クラスの津波に比べて津波高は低いものの“発生頻度が高く大きな被害をもたらす津波（レベル1津波）”で、津波が内陸に浸入するのを防ぐ海岸防護施設の設計に反映する津波です。
ここで海岸防護施設とは、皆さんも海岸で目にされたことがあると思いますが、コンクリート等で出来た“堤防”や“水門、陸閘（りっこう）”など、海と陸を隔て、皆さんの生活の場を守っている施設のことです。（図-1参照）

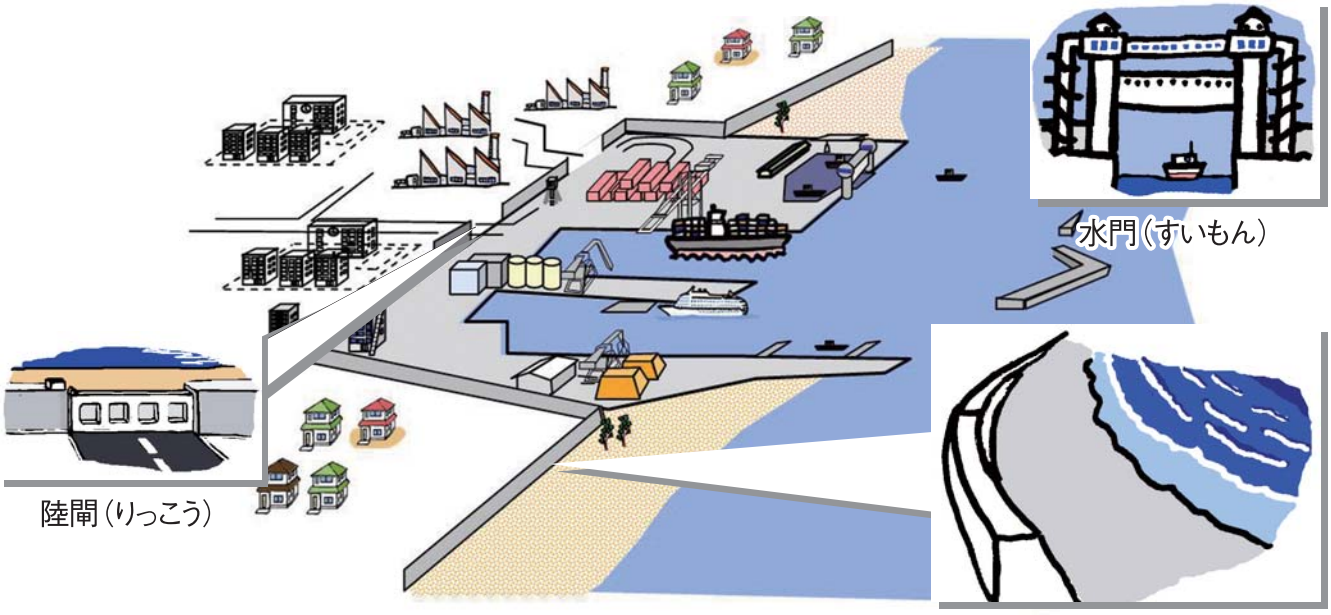


図-1　海岸防護施設と設置される場所（イメージ）

このうち水門・陸閘は、扉構造でいつもは開いていることから、いざという時に人が閉鎖しなくても良いように“津波・高潮防災ステーション”（※注1）から遠隔操作が出来るようにしています。
今後は、検討中のレベル1津波の高さが決まり次第、これら海岸防護施設に対するかさ上げなどの新たな対策を実施していきます。

注1：津波・高潮防災ステーションとは、水門・陸閘等の制御操作・画面情報等を一元的に監視し海岸防護施設の制御を行う機能をもった施設。

みなと事業継続計画（港BCP）

静岡県では従来、発生が予想される東海地震等の大規模災害時において、陸上ルートが寸断され、国等からの緊急物資の輸送手段が海上輸送となる場合を想定し、港湾・漁港を活用した緊急物資輸送ネットワークを構築しています。（図-2参照）

これは、国などからの緊急物資を直接受け入れる「防災拠点港湾」とこの防災拠点港湾から緊急物資を受け入れる「防災港湾」を予め位置づけ、7つのエリアに分けた県内各地に緊急物資を円滑に搬送するものです。

このうち防災拠点港湾では、大規模災害発生後に緊急物資を受け入れる機能を早期に復旧するため、緊急時における港湾関係者との連絡体制や行動を示した「地震災害対策マニュアル」を既に作成しています。

図-2　緊急物資の受入れ・輸送のネットワーク

今回はこの地震災害対策マニュアルを発展的に見直し、県営港湾・漁港において大規模災害発生時に「“港内で働く方々の命”を守り」、「“災害時の緊急物資輸送拠点”として機能」し、そして「“早期の物流・流通機能を復旧”」し、地域経済活動の回復を支えるといった復興の段階に至るまでの、時間軸に沿った港湾機能を確保する“みなと事業継続計画（港BCP）”の作成を目指しています。

港BCPは大きく分け、“被害の軽減”と“復旧期間の短縮”の2項目からなります。（表-1参照）

項　目		目　的	内　容
港BCP	港頭地区の被害の軽減	人的被害の最小化	避難誘導計画の策定
		物的被害の最小化	施設の補強等の検討・コンテナ等流出対策の検討
	港湾施設の復旧期間の短縮	防災拠点機能・物流流通機能の早期回復	初動体制の構築（緊急物資の受入・物流機能の早期回復）
			広域連携の検討

表-1　みなと事業継続計画（港BCP）の内容

“被害の軽減”では、人的被害を最小化するための避難誘導計画の作成や物的被害を最小化するための施設の補強、貨物の流出防止策等を検討・実施することにしています。

“復旧期間の短縮”では、発災後の初動対応から港における物流・水産流通の早期復旧までの対応を検討し、平常時に備えておくべき内容や災害時における物流機能等の早期復旧のための手段などを取りまとめます。

この計画によって、災害発生時の最低限度の業務レベルの維持や復旧の道のりにおける業務レベルの回復度の向上といった効果がもたらされます。（図-3参照）これら一連の方策を、各港の役割や重要度に合わせて、港ごとのBCPとして取りまとめる予定です。

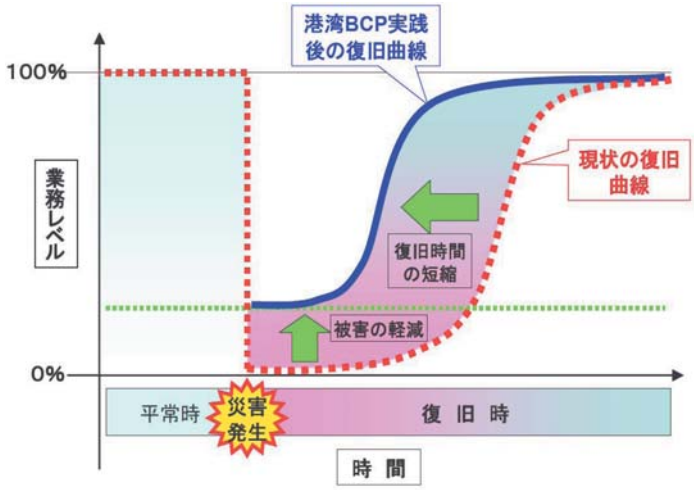


図-3　復旧時間短縮と被害軽減のイメージ
（港BCPでの復旧曲線）

次に、BCPの入口となる“避難誘導計画”について紹介します。

避難誘導計画

避難誘導計画策定の目的は、「海岸防護施設より海側に位置する港湾・漁港内で働く人の“命”を津波から守る。」ことです。

計画においてはまず、港内の企業等へのアンケート等により労働者の作業状況（人数・場所）や避難計画の有無の確認等の基礎的な調査を行います。

次に、港内で想定される津波浸水高と到達時間を基に、現地での避難ルートを検討・選定します。

最後に、港の全体図面に津波の到達範囲や海岸防護施設、避難ルート、避難先等を記載します。この図を基に、避難誘導看板や照明塔の設置位置なども検討します。（図-4参照）

検討の結果、津波到達時間内に安全な避難先へ避難できない“避難困難なエリア”が発生する場合は、その人数や津波による浸水高に応じて、命山や避難タワーなどのいわゆる“緊急避難施設”を設置します。

各港では、これら内容を県営の港湾・漁港全ての港湾関係者等に提供し、いざという時の迅速な避難を促すため、4次想定の内容をもとに作業をすすめています。

図-4　避難誘導計画の例（御前崎港:作成中）

自助、共助、公助

港湾・漁港での静岡県の取り組む津波対策について説明してきましたが、今回の東日本での被災により、津波からの早期避難など、われわれ県民一人ひとりが主体的に取り組む「自助」の再確認が重要と考えています。

そして自助では解決できない課題に対して、自主防災組織を中心に地域の住民や事業所・学校などが協力し解決する「共助」の取組みを進め、さらに自助・共助の取組みを後押ししつつ、更なる課題に「公助」として積極的に静岡県は取り組んでいきます。

みなとニュース

「御前崎・牧之原地域交通基盤事業完成式典」を開催しました

静岡県は、平成24年8月5日（日）、御前崎港コンテナクレーン新1号機及び「金谷御前崎連絡道路」大沢インターチェンジの立体交差化の完成を祝し、「御前崎・牧之原地域交通基盤事業完成式典」を知事出席のもと、津川国土交通大臣政務官を始めとする国、地元市長、港湾関係者などをお招きし開催しました。

新コンテナクレーンは、昨年更新したクレーンと同じ機能を持ち、近年の船舶の大型化や荷役のスピードアップに対応し、免震機能により高い耐震性を備えています。

また、本地域は、富士山静岡空港や御前崎港、東名高速道路、新東名高速道路といった、交通基盤が集積する全国でも稀な好条件の地域であり、これらを有機的に結び、相乗効果を最大限に発揮させるため、「金谷御前崎連絡道路」を計画・整備してきました。

これら施設の完成は、御前崎・牧之原地域のポテンシャルを一層向上させ、今後の企業誘致や貨物集荷において大きなセールスポイントになり、地域経済の発展に資するものと考えています。県としては、県内道路・港湾・空港とを有機的に連携させ、陸・海・空の交通ネットワークを更に充実させるとともに、東日本大震災を踏まえた災害に強い社会基盤の整備を着実に進め、「富国有徳の理想郷づくり」に邁進します。

御前崎・牧之原地域交通基盤事業完成式典（御前崎港）

静岡県港湾物流促進戦略と「駿河湾港アクションプラン」推進計画

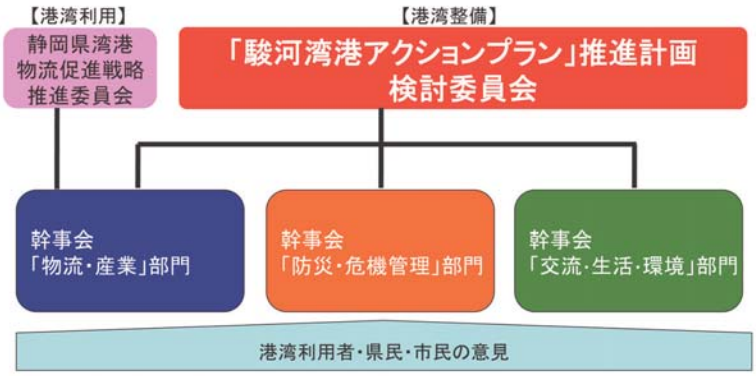
県では、平成23年3月に駿河湾港アクションプランを策定しました。これは、清水港・田子の浦港・御前崎港を駿河湾港ととらえ、3港の機能分担と相互補完による一体的な利活用について、主として物流面においてのビジョンを示したものです。

今回、この駿河湾港アクションプランを踏まえ、静岡県港湾物流促進戦略（以下「戦略」という。）の見直しを行うとともに、物流面に防災面や交流面も加えた、総合的な長期的整備構想として、「駿河湾港アクションプラン」推進計画（以下「計画」という。）を策定することとしました。

この「戦略」と「計画」を、駿河湾港3港がハード・ソフト両面から、より一層利便性が高く、魅力ある港にするための両輪にしたいと考えています。

「戦略」は東海大学海洋学部の篠原教授を委員長とする、静岡県港湾物流促進戦略推進委員会により検討を進めており、今年度中に策定の予定です。また、「計画」は（社）日本港湾協会の鬼頭理事長を委員長とする「駿河湾港アクションプラン」推進計画検討委員会により検討を進めており、平成25年度中に策定の予定です。

「駿河湾港アクションプラン」推進計画検討委員会の組織体制



平成２４年度　全３回予定
第１回　H24. 7. 27開催
第２回　H24. 11. 22開催
第３回　H25. 3. 19開催予定

平成２４～２５年度　全５回予定
第１回　H24. 9. 19開催
第２回　H24. 12. 20開催
第３回　H25. 3開催予定
第４回　H25. 9開催予定
第５回　H25. 12開催予定

駿河湾港が「国際物流総合展2012」に出展

静岡県港湾局は、平成24年9月11日から4日間、東京ビッグサイトで開催された「国際物流総合展2012」に富士山静岡空港と共同で出展し、駿河湾港（清水港・田子の浦港・御前崎港）の利用を呼びかけました。

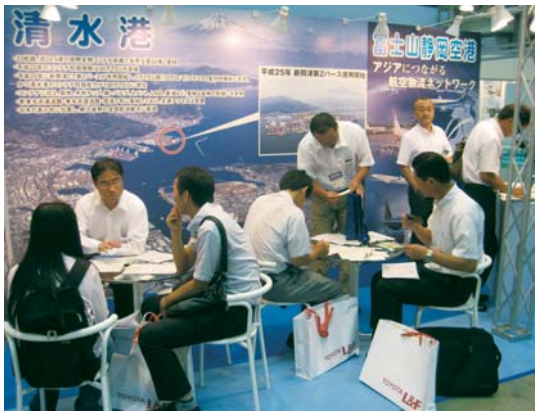
2年に1度開催されるこの「国際物流総合展2012」は、物流・ロジスティクス関連としてはアジア最大規模の展示会で、港湾・空港等の物流拠点に加え、保管機器・仕分け・ピッキング・搬送等のシステム、車両、パレット・コンテナ、保管・輸送サービス、情報機器・ソフトフェア、コンサルティングなど出展ジャンルは広範に及びます。

開会期間中、参加者は国内外から約13万人に上り、多くの人で賑わいました。

静岡県ブースにも、駿河湾港や空港はもちろん、新東名高速道路の開通など充実著しい道路網を加えた「陸・海・空の交通ネットワーク」に注目する方が数多く訪れ、説明に熱心に耳を傾けていました。

静岡県では、駿河湾港の利用促進のため、今後も積極的にPRを行ってまいります。

多くの参加者で賑わう会場



静岡県ブースの様子

「御前崎港セミナー」を開催しました。

御前崎港ポートセールス実行委員会（静岡県、御前崎市、牧之原市、民間事業者で組織）は、御前崎港の利用促進を図るため、平成24年10月22日に浜松市内のホテルで県中西部の荷主企業や船社など約260人を集め、御前崎港セミナーを開催しました。主催者を代表し石原茂雄御前崎市長が挨拶し、「中部西部地域の物流拠点としての魅力を官民一体でアピールし、セールス活動に取り組む」と御前崎港の積極的な利用を呼び掛けました。

御室健一郎浜松商工会議所会頭及び守屋正平中部地方整備局港湾空港部長の来賓挨拶に続き、鈴木宣好静岡県御前崎港管理事務所長が御前崎港の概要と津波対策を説明しました。

また、篠原正人東海大学教授による「駿河湾港の今後について」をテーマとした講演に続き、橋本五郎読売新聞東京本社特別編集委員による「どうなる日本!今こそ足元の復興を」と題した講演が行われました。

その後開かれた交流会では、川勝平太静岡県知事や鈴木修スズキ株式会社会長兼社長が参加し、活発な意見交換が行われました。

講演する篠原正人東海大学教授

セミナー会場

清水港から移設されたコンテナクレーン、熊本港で完成記念式典

平成24年3月に静岡県から熊本県に譲渡された清水港コンテナクレーン袖師1号機が、クレーン本体の改修工事や熊本港への移設を終えたため、10月29日に完成記念式典が開催されました。

式典には熊本・静岡の両県知事の他、幸山熊本港ポートセールス協議会会長（熊本市長）、久我熊本港振興協会会長、県議会議員・市議会議員、荷主・港運会社関係者など、約150人が出席。6月に蒲島知事が川勝知事と面談した際に両県知事が友好の証として署名した記念プレートの除幕やテープカット、くす玉割り、初荷式などが行われました。

来賓挨拶で、川勝知事は「美しい有明海の下で燦然と陽光を受けながら輝いているクレーンの姿は、まさに所を得たという感じ。新しい働きの場を得て喜んでいるようで、本当に良かった」と祝辞を述べました。

このクレーンは、船舶の大型化に対応した清水港の新興津国際海上コンテナターミナルの整備に伴って更新されることとなったもので、静岡県にとっては、中古クレーン市場の需要が限られている中で費用を掛けずにリサイクルが可能となり、また熊本県にとっても、新規整備よりは低額でクレーン導入を実現することができました。

記念プレートへの署名後に握手を交わす川勝知事（左）と蒲島知事

完成したクレーンを前にテープカットを行う式典出席者

首都圏企業に清水港をPR　～首都圏「清水港セミナー」～

清水港ポートセールス実行委員会（静岡県、静岡市、清水港利用促進協会で組織）は、平成24年10月31日、都内で首都圏「清水港セミナー」を開催し、同港の利用拡大に向けて在京の船社、荷主企業など延べ850人に対してPRを行いました。このセミナーは平成4年に開始し、今年で21回目になります。

主催者を代表して鈴木与平実行委員長が挨拶し、「昨年のコンテナ取扱量は50万TEUを突破し、今年も9月末時点で38万TEUと好調に推移している。今年4月に新東名高速道路が開通したのに加え、来年には新興津コンテナターミナル第2バースの供用を開始する予定であり、更に利便性の高い港にしていく」と積極的な利用を働きかけました。

山崎浩清水港管理局長の清水港概要説明に続き、伊藤元重東京大学大学院教授が「内外経済の変化と日本の産業」をテーマに講演し、日本経済を取り巻く現状と再浮上のために求められることについて述べました。

その後開かれた交流会には、川勝平太静岡県知事が参加し、活発な意見交換が行われました。

セミナー会場の様子

講演する伊藤元重東京大学大学院教授

「ちきゅう」の母港、清水港

（独）海洋開発研究機構（JAMSTEC）が所有する地球深部探査船「ちきゅう」が、紀伊半島沖の南海トラフ地震発生帯掘削計画実施の準備のため、平成24年9月26日から10月3日まで清水港に寄港しました。

「ちきゅう」は、マントルや巨大地震発生域への大深度掘削を可能にする世界初のライザー式科学掘削船で、海底下から7,000メートルを掘削しマントルまで到達することができる、海に浮かぶ最新の研究所です。

これまで、巨大地震が発生するメカニズムの解明や、原始地球の生命誕生の謎に迫る研究を行っています。また、海底に眠るメタンハイドレードなどの、地下資源の開発計画などを進めています。

この「ちきゅう」は、川勝知事がその命名委員の一人として名を連ねているほか、清水港との関わりも深く、平成17年に進水して以来、10回以上も来港しています。平成22年の3月には、日の出埠頭で一般公開も行われ、2日間で8,000人以上の人が乗船しました。また、昨年10月1日（月）には、JAMSTECの堀田理事たちが県庁を訪れ、川勝知事と歓談しました。

今年1月にも清水港に寄港し、遠州灘沖でのメタンハイドレード調査のための準備を行いました。また、「ちきゅう」寄港中の1月10日から30日まで、フェルケール博物館の1階ホールでパネル展が行われています。

【ちきゅうの諸元】

全長	210m	総トン数	約56,752トン
幅	38.0m	最大速力	12ノット
船底からの高さ	130.0m	最大搭載人員	200名
深さ	16.2m		

【清水港への寄港一覧】

年　度	20	21	22	23	24
寄港回数	1	3	5	2	1
係留日数	2	92	76	30	8

富士山とちきゅう

一般公開の様子（H22.3）

JAMSTEC理事たちが知事と歓談（H24.10）

静岡県港湾振興会の県外港湾視察研修

静岡県港湾振興会では、平成24年11月20日、21日の2日間、会員団体等から19名が参加し、愛知県の名古屋港、三河港、ラグーナ蒲郡、フォルクスワーゲンジャパン豊橋の視察研修を実施しました。

名古屋港では、飛島コンテナターミナルを視察した後、港務艇「ぽーと・おぶ・なごや2」に乗船し、洋上から名古屋港内を視察しました。

飛島コンテナターミナルは、日本初となる自働搬送台車（AGV）や遠隔自動RTGを導入した最新鋭の自動化ターミナルで、「船社・港運・陸運」10社の共同出資により設立された飛島コンテナターミナル（株）が運営にあたっています。現在でも、AGVの改良やガントリークレーンとの効率的な連携によるさらなる荷役効率向上に取り組んでいます。

また、名古屋港は、コンテナターミナルの民営化を推進するとともに国際バルク戦略港湾施策の推進などにより、さらなる港湾サービスの向上、産業立地の推進を目指していました。

2日目のラグーナ蒲郡は、大規模マリーナを核とし、テーマパーク・商業施設・リラクゼーション施設に加え、リゾートマンションも有した複合施設です。愛知県、蒲郡市、トヨタ自動車などの出資による第3セクターが開発主体となり進めてきた開発の経緯や、様々な季節のイベントを絶え間なく展開する集客への取り組みなどについて説明を受けた後、観覧車で施設内を一望しました。

三河港は昭和37年5月、4港（西浦、蒲郡、豊橋、田原）を統合し誕生しました。蒲郡ふ頭、神野ふ頭をはじめとする公共ふ頭の整備に加え、生産拠点として約2,000ヘクタールの工業用地造成を進めてきた結果、平成2年からは、ダイムラー、フォルクスワーゲン、ローバーなど欧州の自動車メーカーが完成自動車の輸入基地を設置するとともに、トヨタ、スズキ、三菱自動車等の自動車工業が進出しており、全国有数の完成自動車の輸出入の拠点港湾となっています。

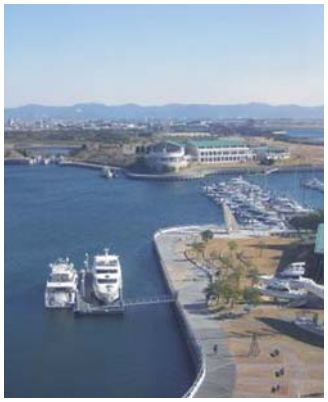
フォルクスワーゲンジャパン豊橋インポートセンターでは、専用埠頭や工場を見学した後、本社セミナールームにて概要説明を受けました。豊橋へ進出した経緯や本社の豊橋への移転のメリット、課題（地元の要望）等の話がありました。進出当時、候補地には、苫小牧、日立、鹿島・・・清水なども挙がっていましたが、専用埠頭が持てたことや広大な用地が確保できたことなどが豊橋に決めた大きな要因とのことでした。

今回は1泊2日の短い視察ではありましたが、各視察先では、丁寧な概要説明をいただき、大変有意義な研修となりました。

AVG（自働搬送台車）

自動化RTG（ラバーダイヤ式ガントリークレーン）

遠隔操作室（飛鳥コンテナターミナル）



ラグーナ蒲郡「観覧車」から施設内を望む

三河港のポートインフォメーションセンター「カモメリア」

ポートインフォメーションセンター「カモメリア」からの眺め

フォルクスワーゲングループジャパン本社にて概要説明

キラリ☆みなと

～輝く・人・まち～

沼津市 水産海浜課

今回の春9号から、「キラリ☆みなと」をスタートします。
各港で取り組んでいる港を活用した地域おこしや、経済の活性化への取り組みを紹介していきたいと考えております。
参考としていただくとともに、紹介したい取り組みがございましたら、寄稿をお願いいたします。

沼津のみなとを活用したまちづくり

豊富な海産物などを取り扱う静岡県東部の物流拠点「沼津港」は、年間131万人が訪れる沼津市で一番のにぎわいスポットとして脚光を浴びています。

平成12年に国から「特定地域振興重要港湾」に選定されたことを受け、港湾管理者である静岡県と地元沼津市で平成14年に「沼津港港湾振興ビジョン」を策定しました。同ビジョンでは、沼津港が観光交流拠点、にぎわい拠点、防災拠点として形成されることが位置付けられています。また、平成19年には県内唯一となる“みなとを核とした地域活性化やにぎわい創出を図るための制度”である「みなとオアシス」に認定されています。

沼津港港湾振興ビジョンの進捗により「沼津みなと新鮮館」など、これまでに多くの施設が整備されており、平成23年には立体駐車場「ぬまづみなとパーキング2号棟」が完成し、交通混雑の緩和が図られています。この駐車場は、沼津港で最大の津波避難ビルとして人命を守る役割も担っています。

こうした中、さらなる集客を目的に様々な取組みが行われています。

まず、10月10日の「魚魚の日（ととのひ）」には、東日本大震災被災地支援イベント「第2回ライジングサンマフェスティバル」が開催されました。宮城県の気仙沼港で水揚げされたサンマが炭火焼きされ、平日の開催にも関わらず訪れた800人の来場者は旬の味覚を堪能しました。また復興支援金も約20万円集まり、活動支援団体を通じて寄付されました。

ライジングサンマフェスティバルでは
チャリティーで炭火焼きサンマが振舞われた

続く、10月20日には、夜の沼津港を食と音楽で楽しむ「ぬまづ港BAR（バル）」が開催されました。食べ歩き、飲み歩きの「街バル」形式を取り入れたイベントで、沼津港エリアの飲食店53店舗から特別メニューが提供された他、エリア内各所ではジャズの生演奏、ストリートパフォーマンス等が行われました。チケットを片手に参加店舗を訪れる来港者により、多くの店で順番待ちの行列ができるなど夜の沼津港が人の波で溢れました。

夜の沼津港においてたいへんな賑わいとなった
ぬまづ港BAR

また、新たな試みとして、市内の観光スポットを活用して実施する「NUMAZUウェディング」メモリアルシーンプランに取り組んでいます。これは「門出を祝う」まちのイメージを定着させ、市内外からたくさんの方々に沼津市に来ていただけるようにしようという試みです。この第一号となる結婚式が、8月31日に大型展望水門「びゅうお」内の地上30メートルの展望施設で行われ、関係者に加え多くの観光客の方からも祝福を受ける、華やかな式となりました。

今後は、沼津港北側の観光船乗り場周辺に、沼津市の玄関口にふさわしい広場整備などが進められることとなっています。こうした整備の進展とともに夜間を含めた回遊性の向上についても強く望まれていることから、関係機関との調整を一層図りながら、更なるにぎわいを創出していきたいと考えています。

駿河湾を目の前に地上30mの展望
回廊でのNUMAZUウェディング

みなと“自慢”～西伊豆の海の玄関口～

松崎町
産業建設課

1. 松崎港周辺のイベント

松崎港

松崎港では4月と9月の年2回、商工会主催による海のピカ市が開催され、雑貨のフリーマーケットや飲食物等の数多くの販売ブースの出店など賑わいを見せます。毎年の恒例行事としてすっかり定着しており、近隣からも多くの人たちが集まります。

ピカ市

ピカ市のフリーマーケット

松崎港に隣接する松崎海岸で毎年9月上旬に開催される伊豆半島太鼓フェスティバルは、平成12年に始まった多くの観客に親しまれているイベントです。例年5団体程度の太鼓演奏グループが松崎海岸の特設ステージで日頃の練習成果を披露します。夕日が駿河湾に沈む頃に開幕し、松崎海岸の雄大な自然をバックに繰り広げられる迫力ある和太鼓の競演に毎年多くの観客が魅了されています。

太鼓フェスティバル

太鼓フェスティバル

2. 防災面での活用

東日本大震災以降、地震や津波に対する人々の関心も高まっていますが、松崎町は、伊豆半島南部に位置することから、大規模災害に際しては陸路の寸断が危惧されており、海路の活用が必要不可欠であることから、海上自衛隊のご協力により訓練を実施しています。

昨年は掃海艇「つのしま」が松崎港に接岸し、地震発生により自力での帰宅が困難な観光客の救出訓練が行われました。今後も観光客等に迅速に避難してもらうため、訓練を継続していきたいと考えています。

海上自衛隊の協力による防災訓練

松崎港に接岸する「掃海艇つのしま」

3. 新たな試み

松崎町の特産品である「川のり」は、海水と淡水がまじりあう河口周辺に自生しており、「川のり」を収穫する風景は冬の風物詩として地域のニュースでも紹介されています。乾燥させて食される「川のり」は香りのよいことから、これまでも地域の住民に愛好されてきました。しかし、収穫期が冬に限られていることから通年の安定的な供給を目指して、2年ほど前から地元有志グループ「松崎花とロマンの里研究会」による「川のり」の陸上養殖が松崎港で始まりました。「川のり」は松崎町以外では高知県の四万十川などで収穫されますが、四万十川などでも収穫量が年々減少してきていることから、養殖の技術確立が望まれています。

川のり養殖

松崎港の環境美化に協力し、松崎港から地域に元気を発信しようという有志「松崎港ポートサポータークラブ」が昨年発足し、港湾周辺の清掃活動や花の植栽などを行っています。これら地域住民自らの活動により松崎港も活性化されることが期待されています。

「松崎港ポートサポータークラブ」による清掃活動

～港こぼれ話～

駿河湾港アクションプランに寄せて

元静岡県空港部理事
元静岡県土木部港湾整備室長
山田　了一

先日、百々勇司氏が主催する清水平成政経塾に参加して、横浜港運協会会長藤木幸夫氏の講演を傾聴しました。港湾とは、三つの条件が満たされたとき初めて港湾といえるとおっしゃいました。一つ目は荷、取り扱う貨物があること。二つ目は係留施設や上屋などの施設があること。三つ目は貨物を取り扱う人がいること。この三つの条件がそろっていなければ港湾とはいえません、と。

静岡県内には15の港湾があり、それぞれ規模の大小はありますが三つの条件は満たされている（?）と思います。駿河湾は石廊崎から御前崎まで沿岸約290kmあり、そのなかに10の港がありますが、それぞれに歴史があり仕来りがあり、地域活力の源として重要な役割を果たしております。特に地方港湾は地域経済の活動の場であると同時に、地域の祭礼のメイン会場となっており、地域のコミュニティ広場でもあります。本誌には毎号「港湾関係行事予定」と称して、港湾・漁港での各地のお祭り日程が掲載されております。駿河湾港に期待することは、経済活動の重要な場であることは当然ですが、地域・地元の力を発揮するためのステージであり続けて頂きたいと思います。

田子の浦港中央航路

駿河湾港構想の基本は、清水港、田子の浦港、御前崎港の相互補完と機能分担です。構想は大変立派ですが、実際に仕掛けるにはかなりな難問があると思います。それは前述しましたが、それぞれの港にはそれぞれの歴史があり仕来りがあるためです。仕来りにより秩序ある港湾運営ができているのではと思います。

韓国へ向けてスクラップ積込みのため入港

田子浦みなと祭り（写真提供:富士市）

田子浦みなと祭り（写真提供:富士市）

過去の仕来りに拘れば港の進歩はないと思われる方もいると思います。私も若い時代、静岡県港湾の将来を熱く語っていたころは、新しい血を入れなければ港湾の明日は無いと思っておりました。しかし港湾は連綿と継続している仕来りをそれぞれ持っております。これを蔑ろにすることはできません。

清水港は1899年に開港場に指定され既に110歳を超えました。しかし、江戸時代あるいはそれ以前の「おらが浜」のころから千石船や小さな舟による物産取引があったと記録されております。そこには数百年の歴史が刻まれております。

御前崎港周辺は古くから地元の漁船の利用のほか、遠州灘を航行する船舶の避難場所として利用されておりました。

田子の浦港は掘込式港湾で、戦後に築港した比較的新しい港ですが、既に50年を経過しました。築港以前も沼川河口を利用した舟運もあり、荒天で河口が閉塞すると、村人が総出で「川切り」をしたという記録も残っております。

港の歴史は簡単に語ることはできません。それぞれその歴史を積み重ねて、現在の港があります。

県では、駿河湾港アクションプラン推進計画を策定中です。その検討委員会を傍聴し、資料を見ましたら策定の目的に「県内産業の国内外における競争力を高め、県民生活の向上に資するため、・・・」とありました。まさに地方港の存在価値は、県内産業云々でなくてはなりません。10年以上も前なら、京浜、中京、阪神に対抗できる港湾の計画策定が目標になっていたことでしょう。

地方港には地方港のやるべきことがあり、京浜や阪神には日本経済向上のために果たすべき役割があります。これは決して地方港が国際競争力を持つ必要が無いということではありません。京浜・阪神に対抗する必要は無く、静岡県独自の地域に密着した港湾であるべき、ということですので誤解のないようにお願いします。

駿河湾港に求められる機能は物流・産業だけではありません。駿河湾港は防災拠点港湾に位置づけられ、大規模災害時に県外からの緊急物資を受け入れる港です。新たな被害想定を基に、大規模震災後早急に港湾活動が再開できるよう、計画策定が必要です。

また、港湾の円滑な運営のためには、地元の人たちの応援がなければなりません。地元の人たちの港湾への親密度を増すための方策が、今後ますます必要となるのではないかと思います。

終わりに、駿河湾港が地域の歴史に立脚し、地域経済の拠点となり、ますます発展していくことをお祈りします。

田子の浦港中央埠頭チップ船、メイズ線の同時接岸

荷役中のチップ船

静岡県港湾振興会の活動報告

静岡県港湾整備促進大会を開催

田辺会長（静岡市長）あいさつ

平成24年7月12日、ホテルセンチュリー静岡において、多くの港湾関係者や行政関係者等のご参加をいただき、港湾整備促進大会を開催いたしました。

田辺港湾振興会会長（静岡市長）のあいさつの後、森山静岡県副知事や小楠県議会議長をはじめ来賓の方々からごあいさつをいただきました。

ご出席いただいた市町長からは「地域の声」と題して意見発表をしていただき、大会の最後には、「静岡県の港湾整備の促進に関する要望」を満場一致で決議し、関係各方面に対して運動を展開していくこととしました。

また同大会に先立ち、静岡県交通基盤部港湾局港湾整備課　増井智道主査により、「岩手県復旧支援で学んだこと～他県との共同支援作業～」と題した、講演が行われました。

西原副会長（牧之原市長）による決議の読み上げ

講演の様子

港湾を考える全国集会に参加

港湾を考える全国集会の様子

平成24年10月25日、東京の砂防会館において、（社）日本港湾協会、全国港湾知事協議会、全国市長会港湾都市協議会、日本港湾振興団体連合会の港湾関係4団体の主催のもと、「港湾を考える全国集会」が開催されました。

当振興会からは石原御前崎市長、鈴木南伊豆町長をはじめ24名が出席しました。

集会では、多数の国会議員に来賓として出席いただく中、主催者のあいさつ、港湾所在市町村首長が港湾整備振興に関する意見表明を行い、「港湾整備・振興に関する提言」が決議されました。

集会に先立ち、ホテルニューオータニで日本港湾協会東海地区支部連合会主催による国会議員との懇談会が行われる中、石原御前崎市長が意見表明し、本県港湾整備への支援を訴えました。

集会終了後は、県内選出の国会議員へ要望活動を行いました。

編集後記

新春のおよろこびを申し上げます。
旧年中は、当振興会の活動にご協力いただき、ありがとうございました。
本年も例年以上に、当振興会及び東海地区支部連合会活動に積極的な参加をよろしくお願いいたします。
さて、新コーナー「きらり☆みなと」はいかがでしたでしょうか?
今後もよりよい紙面づくりに取り組んでまいりますので、ご意見・ご感想がございましたら、ぜひお寄せください。（K.H.）

当会では、会報誌面充実のため皆様からの港に関する情報やニュース・寄稿をお待ちしています。
関係団体の活動、イベントPRなど…どんな些細な事でも構いません。詳しくは下記連絡先までご連絡ください。

静岡みなと通信
編集・発行　静岡県港湾振興会
〒420-8601 静岡市葵区追手町9番6号　静岡県交通基盤部港湾局内
TEL.054-221-3052　FAX.054-221-2389　E-mail:shizu.kouwan@gmail.com